

5.溶血性貧血

■病態および臨床症状

薬剤による溶血性貧血は、免疫抗体が産生された結果、Ⅱ型もしくはⅢ型アレルギー機序を介して成熟赤血球が破壊され、溶血することで生じるとされています。

代表的な症状としては、尿が赤くなる、皮膚や白目が黄色くなる(黄疸)などがあり、貧血症状や発熱もみられます。

■症例報告

患者	性・年齢	女性 50代
	使用理由 (合併症)	頭痛
1日投与量/投与期間	ボルタレン錠25mg 1錠	
<p>10年間以上にわたり慢性の頭痛のためボルタレン錠を含む各種非ステロイド性抗炎症薬を服用していた。 約1カ月前に神経鞘腫切除術、術後3日間ラタモキシセフナトリウム、セファロチンナトリウム、ボルタレン錠、フェニトイン投与。術後経過は良好で、臨床検査値も異常なし。約1カ月後頭痛を訴えた。</p>		
時間経過	症状および処置	
投与開始日	<p>メフェナム酸2錠投与したが軽度の頭痛継続したためボルタレン1錠を併用。頭痛は数時間以内に軽快。 夕刻に肉眼的血尿が発現、黄染した結膜と黄疸を示した。 白血球2,300、赤血球299、ヘモグロビン9.7、ヘマトクリット値28.5、血小板139、AST (GOT)93、ALT (GPT)32、LDH3,339、Alp139、網状赤血球30%、活性部分トロンボプラスチン時間33.2sec、プロトロンビン時間92%、フィブリノーゲン量394mg/dL、血漿中フリーヘモグロビン上昇、ハプトグロビン(-)、尿蛋白(+)、尿潜血(+)、尿沈査(-)、心電図、胸部レ線正常、左腎は石灰化を伴う萎縮、右腎は肥大を認めた。 血管内溶血と急性腎不全と診断。 全ての薬剤の投与中止。</p>	
中止3日後	直接及び間接クームス試験(-)、乏尿は改善。	
5日後	クレアチニン値はピーク値で5.4 mg/dL。	
7日後	顆粒球減少症が発現、顆粒球は39/ μ Lまで減少。	
9日後	リンパ球幼若化試験にてメフェナム酸とボルタレンが最も陽性を示した。	
約2カ月後	貧血と腎機能障害は徐々に改善し、消失した。	
併用被疑薬	メフェナム酸	
併用薬	ラタモキシセフナトリウム、セファロチンナトリウム、フェニトイン	

■主な対処(処置)方法

- ・症状に気づいた時点で服薬を中止することにより改善がみられることが多い
- ・副腎皮質ステロイド薬または免疫抑制薬の投与などが必要